ボランティア活動

必佐小学校六年　野田　昂洋

ぼくは、今までユニセフ基金や東日本大震災救援募金、折りづる作りなどたくさんのボランティア活動をしてきました。中でも、びわ湖トラストという団体で、琵琶湖の清掃活動に参加したことが強く心に残っています。琵琶湖の清掃といっても、島に上陸したゴミを拾う作業のことです。九月十六日の日曜日には、お父さんとお母さんとで、船で沖島に行ってきました。他の団体の方も一緒に沖島の人の住んでいない場所にまで行きました。すると、タイヤ、車のバッテリー、鉄骨、ペットボトル、発砲スチロールなどこんな場所にあるとおかしいと思うようなゴミがたくさんありました。袋に入るだけでも約五十袋はありました。流れてたどり着いたゴミではない物が多くてびっくりしました。そして、そのたくさんのゴミを、石や岩などのまともに歩けない場所を通って運びました。すごく大変でした。他にも長浜から奥琵琶湖の方へ船で行ったこともあります。そこには、大型のゴミがたくさんありました。ぼくは、大型ゴミを見て、なぜこんな所に捨てるのだろうと思いましたが、大型ゴミを捨てるにはお金を払わなければいけないからだと思います。ぼくは、ゴミ拾いがおもしろいし大好きです。けれどゴミがたくさんありすぎて本当に残念です。地球に住んでいる人が地球をよごしていると思うともっと残念です。

ぼくはこれからもゴミ拾いを続けていき琵琶湖を守っていきたいです。またゴミをむやみに捨てないように気をつけたいと思います。

またぼくは毎年、近江八幡駅や平和堂、ブルーメの丘などでユニセフの募金活動をしています。世界には、お金も、食べる物も無く、きれいな水が飲めなくて、病気になり薬も無いので、五才にもならないうちに亡くなってしまう子供たちがいます。

ぼくは、小さい時からお父さんお母さんとこの募金活動に参加してきました。意味も分わからず箱を持って立っていると、「えらいね。」と言ってお金を入れて下さいました。その時は、入れてもらえてうれしかったです。今は本当に困っている人たちのために、募金活動をし、学校のボランティア委員会で、ユニセフ募金をしようと

自分で決めて、よびかけています。ぼくもおこづかいからお金を六百円入れました。少しでも貧しい国の子供たちの状況がよくなっていったらうれしいです。ぼくはこれからも世界の困っている人たちを助ける活動を続けていきたいです。そして、お金や食べ物などを大切にしていきます。

東日本大震災の災害も、とても悲しいものでした。あの日あの時に、地震がなかったら東北の人たちは今でも元気に暮らしていたと思います。今までの思い出が全てなくなった家族もいたと思います。ぼくは、五年生の時ボランティア委員会で、被災地の人たちのために何かできることはないかと考えて、全校で折りづるを折って送ることにしました。ものすごく時間をかけて、必佐小学校のみんなで作りあげました。すごく大変でした。それを被災地の福島県新地町の三つの小学校に送りました。その学校からは、学校紹介のビデオが届き、みなさん元気そうで安心しました。そして駅や平和堂、ブルーメの丘などにも立って震災の救援募金を行いました。たくさんお金が集まりました。ぼくがもらうのじゃないけれど、入れてもらってうれしかったです。お金や折りづるを送って喜んでもらえてうれしかったです。

ぼくは、いろいろなボランティア活動に参加して、多くのことが勉強になりました。琵琶湖の清掃に行き、湖岸で捨てられたゴミがいろんな島に流れてひょう着していることが分かりました。募金活動では、世界にはたくさん貧しい国があることが分かりました。多くの人に知ってもらい少しでもボランティア活動してくれる人が増えるといいなと思います。ボランティア活動をすると気持ちがいいし、人が喜んでくれるのでこれからもボランティア活動を続けていきたいと思います。